



FOREX WEEKLY REPORT

2018年8月13日

(株)新生銀行 市場営業部
SFXM-1808137811

I. 先週の動き

通貨			東京市場			海外市場			終日	
			始値	安値	高値	安値	高値	終値	安値	高値
ドル円 高値 111.53 安値 110.51	8/6	月	111.23	111.16	111.37	111.21	111.53	111.40	111.16	111.53
	8/7	火	111.40	111.24	111.44	110.99	111.48	111.38	110.99	111.48
	8/8	水	111.38	111.11	111.44	110.84	111.19	110.95	110.84	111.44
	8/9	木	110.98	110.71	111.08	110.86	111.17	111.09	110.71	111.17
	8/10	金	111.08	110.68	111.16	110.51	111.13	110.93	110.51	111.16
ユーロ円 高値 129.45 安値 126.02	8/6	月	128.70	128.54	128.75	128.51	128.87	128.70	128.51	128.87
	8/7	火	128.71	128.62	128.94	128.78	129.23	129.18	128.62	129.23
	8/8	水	129.18	129.04	129.45	128.57	129.09	128.82	128.57	129.45
	8/9	木	128.86	128.49	128.91	128.05	129.00	128.05	128.05	129.00
	8/10	金	128.05	126.83	128.08	126.02	127.40	126.47	126.02	128.08
ユーロドル 高値 1.1628 安値 1.1388	8/6	月	1.1570	1.1550	1.1572	1.1530	1.1571	1.1553	1.1530	1.1572
	8/7	火	1.1554	1.1552	1.1584	1.1569	1.1608	1.1598	1.1552	1.1608
	8/8	水	1.1599	1.1595	1.1628	1.1574	1.1625	1.1610	1.1574	1.1628
	8/9	木	1.1610	1.1599	1.1619	1.1526	1.1607	1.1527	1.1526	1.1619
	8/10	金	1.1527	1.1432	1.1537	1.1388	1.1482	1.1408	1.1388	1.1537

◆先週の動き

【8/6】週明けドル円は、一日を通して値幅37銭の狭いレンジで推移。シドニー時間につけた111.16をこの日の安値に、東京時間に111.37まで小幅上昇。欧州時間は、ドル買い地合いとなりドル円は111.53(高値)まで上伸。NY時間にかけて米長期金利低下に伴いドル買いは一服し、111.40を挟んで揉み合っで引けた。ユーロドルはシドニー時間につけた1.1575がこの日の高値。東京時間は1.1560を挟み上下10pts程度の値幅で揉み合い。欧州時間は英EU離脱を巡る懸念を背景に英ポンドが売られる中、同じ欧州通貨であるユーロも売り優勢となり1.1530(安値)まで下押し。NY時間にかけてユーロ売りは一服し、1.15台半ばまで戻して引けた。米国とトルコの政治的対立が懸念される中、トルコリラは最安値を更新し対ドル5.41台、対円20円台半ばまで下落した。またトルコの10年債利回りは過去最高となる19.68%まで上昇した。

【8/7】東京時間のドル円は111.24-111.44の狭いレンジで推移。この日は中国株が大幅高となり、また中国オフショア人民元も対ドルで堅調推移となった。欧州入り後は欧州株上昇・独長期金利上昇となり為替市場はドル売りに傾斜。更に「人民銀が市中銀行に要請、人民元取引で“群れ行動”避けよ一関係者」との報道が伝わると対中国人民元でのドル売りも加わり、NY入り際にドル円は110.99(安値)まで下落。NY入り後は米主要株価の堅調推移や米長期金利上昇が市場のリスク許容度改善に寄与し、為替市場は円売りに転換し111.48(高値)まで上昇。引け際に米当局が今月23日に中国製品160億ドル相当への関税25%を発動すると伝わり、111.35-111.40レベルまでやや緩んで取引を終えた。東京時間のユーロドルは、1.1552を安値に1.1560を挟んだ狭いレンジで推移。欧州入り後は欧州株上昇・独長期金利上昇となり為替市場はユーロ買いに傾斜し、NY入り際に1.1608(高値)まで上昇。NY時間はリスクオン地合いとなるも円主導の動きであったことからユーロドルは1.15台後半での小動きとなり、1.15台後半で取引を終えた。米国とトルコの政治的対立やトルコ国内のインフレ加速が懸念される中、トルコ10年債利回りは前日に続き過去最高値を更新し19.91%まで上昇した。

【8/8】東京時間のドル円は、午前中は手掛かりなく111.30-111.40近辺で推移(高値111.44)。しかし午後に入ると日経平均が急落し、他のアジア株も軟調になったことでドル円も下落。翌日に控えた日米貿易協議を前にドル買い・円売りポジションの調整(ドル売り)が入ったこともあり、欧州時間に111円を割れて110.84の安値をつけた。その後はゆっくりと買戻しが入り、再び111円台を回復。パーキン・リッチモンド米連銀総裁の「(米)政策金利の正常化に向けた漸進的利上げを継続すべき」との発言が材料となり、111.19まで上昇。その後は中国が新たに8/23より160億ドル相当の米国製品に25%の関税を賦課することが発表され、原油先物は急落、米株も軟調に始まった。しかしドル円への影響は限定的であり、NY時間は110.90-111.00での狭いレンジ推移に終始して取引を終えた。



ユーロ円は、ドル円同様に東京時間午前中は129円台前半で方向感のないレンジ取引の中、129.45の高値をつけた。東京時間の午後になると日経平均の急落に伴い、ユーロ円も急落し、128.57の安値を示現。その後、ゆっくりと値を持ち直しながら、欧州時間、NY時間を通し128円後半での推移となった。

英ポンドは「条約締結せずにEU離脱」の可能性が高まったとの思惑を背景に急落。対ドルで1.2960から12860割れまで100ポイント以上下落した。

【8/9】東京時間のドル円は111.00近辺からスタート。日米通商協議を控える中、日経平均株価が下落して始まり、正午にかけて110.71(安値)まで下落。しかし午後に入りフローと思われるドル円の買いが入った他、中国株が大幅高となりリスク許容度改善を背景に円が売られ、欧州時間には111.17(高値)まで上昇。NY入り際に発表となった米7月生産者物価指数(前月比+0.0% / 予想+0.2%)が市場予想を下回り、一時110.90割れまで下押し。その後は主要通貨全般に対してドルが買われ、111円台前半で引けた。東京時間のユーロドルは1.1619を高値に概ね1.16台前半で小動き。欧州入り後は1.15台後半までややレンジを下げたものの、ECB経済報告の「ユーロ圏の賃金の伸び加速はインフレ率上昇の前兆」との文言への為替市場の反応は限定的となった。NY入り後は主要通貨全般に対してドル買いとなり、6月21日以来の安値1.1526まで下落して引けた。米国とトルコの政治的対立が懸念される中、トルコリラは最安値を更新し対ドル5.56台、対円20円割れまで下落した。

【8/10】ドル円は、東京時間早朝につけた111.16がこの日の高値。仲値にかけては日経平均株価の下落に連れて111円割れまで下落。東京時間午後、トルコリラの下落が欧州銀行に与える影響が示唆された事を受け、ユーロドルは1.15を下抜け急落。ユーロ下落がトリガーとなり、為替市場はドル買い・リスクオフ相場に突入。欧州入り後、トルコリラが急激に売られた(約10%)ことで更にドル買いに拍車がかかり、ドル円は一時111円台前半まで買われる場面があるも、リスクオフの円買いフローに110円台後半での値の荒い動きが続いた。更に米トランプ大統領がTwitterにてトルコの鉄鋼・アルミへの関税倍増を承認したことを示唆すると、トルコリラが対ドル6.87台、対円16円台まで続落。市場ではリスクオフの円買いが再燃し、ドル円は110.51(安値)まで下押しした。引けにかけてはトルコリラの下げ止まりとともに110円台後半を回復した。東京時間のユーロドルは、1.1537を高値に1.15台前半で小動きとなったが、午後に入ってからトルコリラの下落が欧州銀行に与える影響が示唆され全般的なユーロ売りを誘発し節目の1.15を割れ1.14台前半まで急落した。欧州時間は1.14台半ばで揉み合い。NY入り後は、トランプ米大統領のトルコの鉄鋼・アルミへの関税倍増発言を受けリスク回避の円買いが優勢となる中、ユーロ円が126円ちょうど近辺まで下落したことに連れて、2017年7月以来の安値となる1.1388まで下値を拡大して引けた。週末、トルコのエルドアン大統領は演説にて引き続き米国に抵抗する姿勢を示したことから、週明けの為替市場はリスクオフムードで始まり、トルコリラは対ドルで7.24台、対円で15円台まで最安値を更新。ドル円も110.32まで下落したが、トルコの銀行規制監督当局がリラのスワップ取引を制限する措置を表明した後は、下げ幅を縮小した。

II. 今週の予想

通貨	今週予想		コメント
	安値	高値	
ドル/円	109.80	112.00	ベア
ユーロ/円	124.60	128.20	ベア
ユーロ/ドル	1.1350	1.1450	ベア

◆今週の予想

今週のドル円は109.80-112.00円と久方ぶりの110円割れにトライする展開を予想。

先週末のトルコ通貨危機を発端としたリスク回避の動きは、トランプ大統領顧問弁護士の発言やトルコ財務相の市場鎮静化行動計画発表から一旦は持ち直しているが、トルコのエルドアン大統領は引き続き強気な姿勢を維持しており、予断を許さない状況。そのため市場もリスクオフ方向にバイアスがかかりやすい状況となっている。今週は日本がお盆休み、かつ海外勢も夏季休暇で取引参加者が少なく流動性が乏しい週であり、些細なネタで110円割れの水準まで下落する可能性は十分あるだろう。

但し、今週は注目度の高い経済指標やイベントはほぼ無く、注目された日米新通商協議も双方入口の議論に終始し来月へ持ち越しとなっておりこちらもネタとしてはイマイチ。現時点では前述のトルコ通貨危機の行方に焦点を絞っておいてもいいだろう。

テクニカル面では、一目均衡表の雲上110.29円、週足で110.53円と現状SPOT(110.60)に近い水準であり、110円を割れ109円台半ばまで急落することがあれば、トレンドがリスクオフサイドへ傾き、上値110円が重くなるといった展開を予想している。

個人的には常日頃円安サイドを見ているため、トルコ通貨危機は結局何事もなかったねと通過してくれることを祈るばかりです。



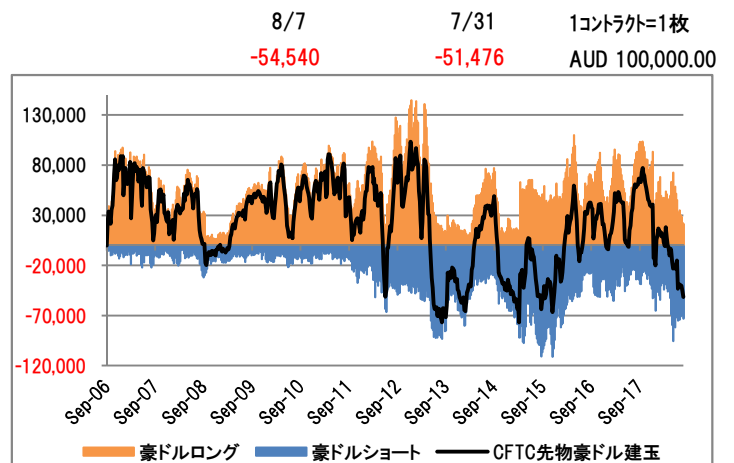
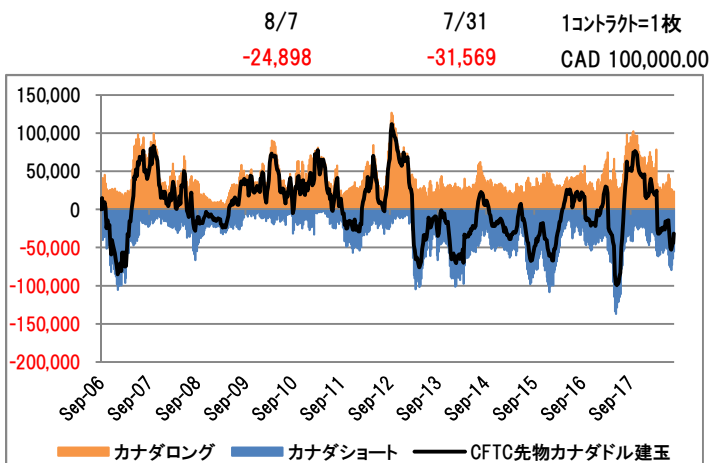
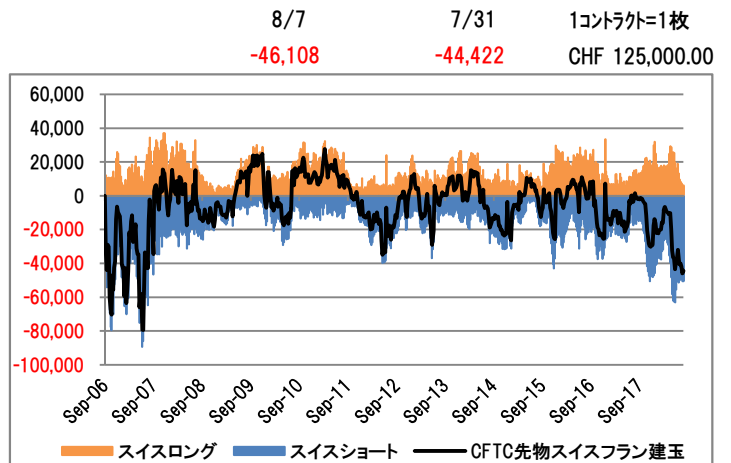
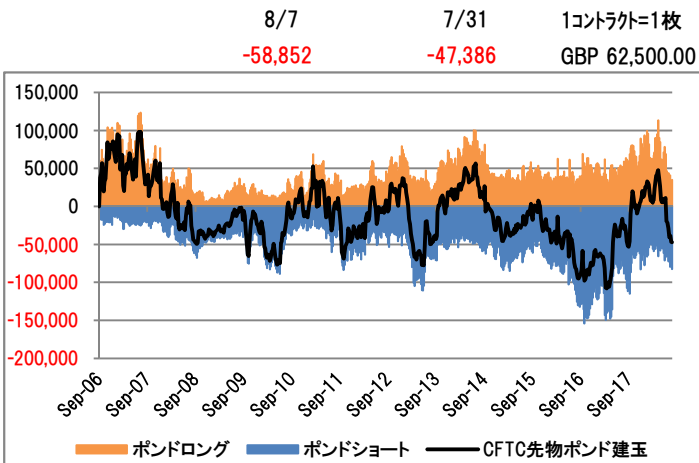
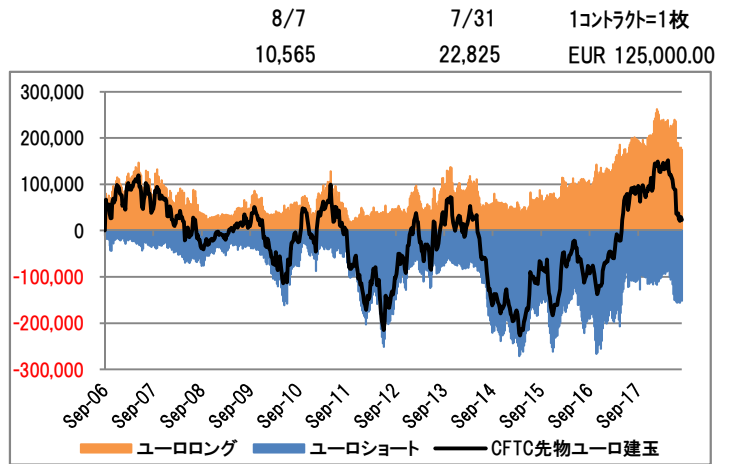
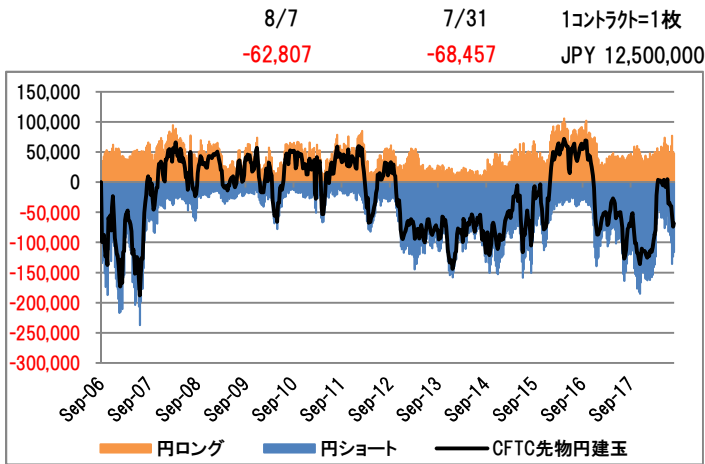
Ⅲ. 経済指標カレンダー

日付	時間	国	月	経済指標、要人発言
8月14日	11:00	中	7月	小売売上高(前年比)
	11:00	中	7月	鉱工業生産(前年比)
	13:30	日	6月 確報値	鉱工業生産(前月比)
	15:00	独	第2四半期 速報値	GDP(季調済/前期比)
	15:00	独	7月 確報値	消費者物価指数(前年比)
	17:30	英	7月	失業率(社会保障受給)
	17:30	英	7月	失業保険申請件数推移
	17:30	英	6月	ILO失業率(3カ月)
	18:00	欧	6月	鉱工業生産(季調済/前月比)
	18:00	欧	第2四半期 速報値	GDP(季調済/前期比)
	18:00	独	8月	ZEW調査(現状指数/期待指数)
	21:30	米	7月	輸入物価指数(前月比)
	8月15日	9:30	豪	8月
17:30		英	7月	消費者物価指数(前年比)
17:30		英	7月	生産者物価指数(季調前、前月比)
20:00		米		MBA住宅ローン申請指数
21:30		米	8月	ニューヨーク連銀製造業景気指数
21:30		米	7月	小売売上高速報(前月比)
22:15		米	7月	鉱工業生産(前月比)
8月16日	10:30	豪	7月	失業率
	17:30	英	7月	小売売上高(含自動車燃料、前月比)
	21:30	米		新規失業保険申請件数
	21:30	米	8月	フィラデルフィア連銀景況
	21:30	米	7月	住宅着工件数
8月17日	18:00	欧	7月 確報値	消費者物価指数(前年比)
	21:30	加	7月	消費者物価指数(前年比)
	23:00	米	7月	景気先行指数
	23:00	米	8月 速報値	ミシガン大学消費者マインド



IV. IMM投機勘定

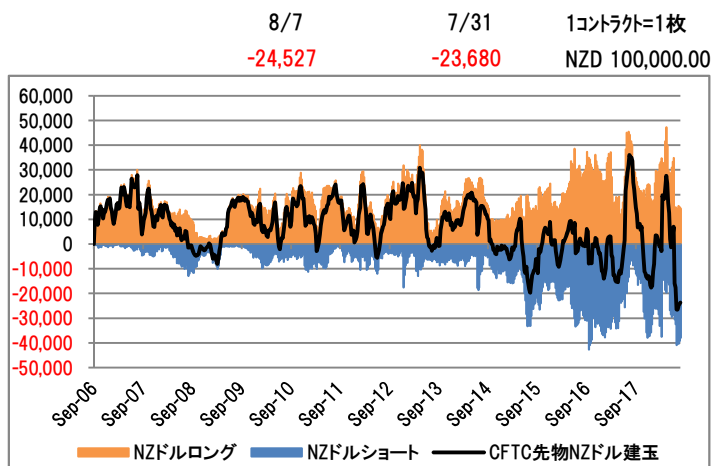
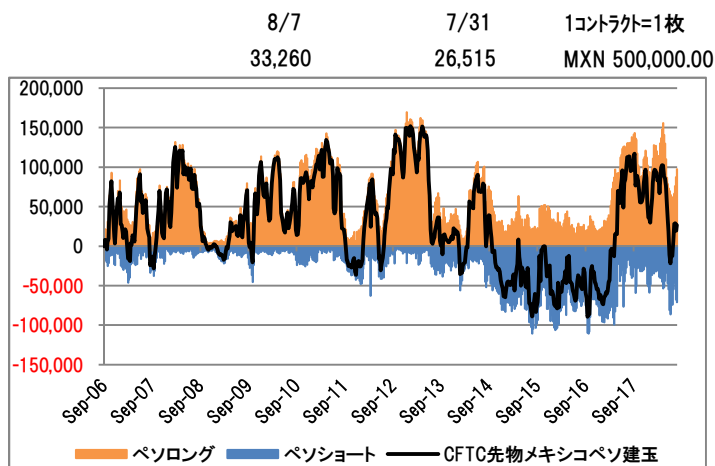
- ★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。
- ★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。
- ★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。



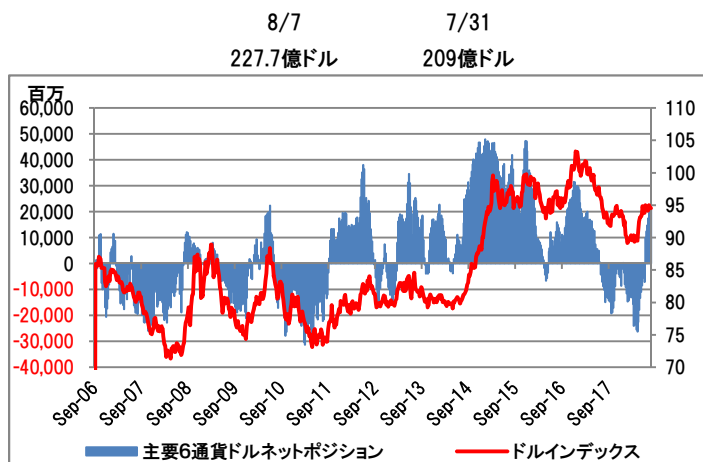


IV. IMM投機勘定

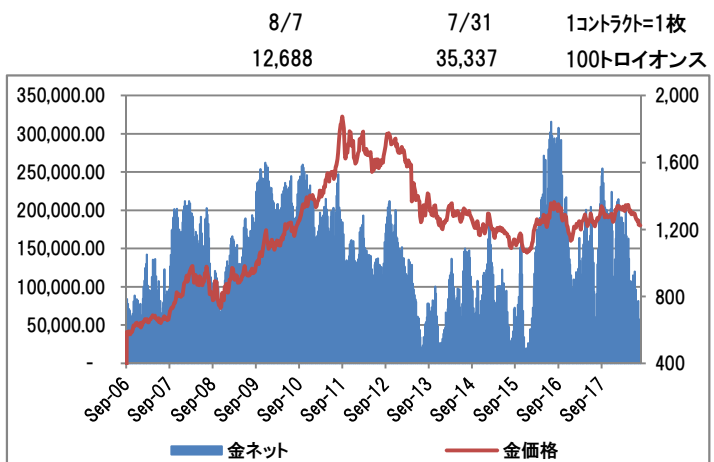
- ★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。
- ★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。
- ★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。



★対8通貨のドルネットポジションとドルインデックス



★COMEX金投機筋ネットポジションと金価格の推移



- ・この資料の無断での複製、転写、転載、改竄または配布は、禁止されています。
- ・この資料は、情報の提供を唯一の目的としたもので、特定の金融商品取引の投資勧誘・奨励を目的としたものではありません。
- ・金融商品取引を検討される場合には、別途当該金融商品の資料を良くお読みいただき、充分にご理解されたうえで、ご自身の判断と責任においてお取引をなさるようお願いいたします。
- ・金融商品によっては所定の手数料等をご負担いただく場合があります、また金融商品によっては証拠金や担保をご提供いただく場合があります。なお、具体的な金融商品が定まっていないため、現時点では手数料・証拠金・担保等の額または計算方法およびその比率をお示しすることはできません。
- ・金融商品によっては、金利水準、為替相場、株式相場等の金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により、お客様に損失が生じることがあり、またこの損失がお客様からご提供いただいた証拠金・担保(もしあれば)の額を上回るおそれがあります。
- ・商号等/株式会社新生銀行 登録金融機関/関東財務局長(登金)第10号 加入協会/日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会